

TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>廣川： 廣川陽子です。 さあ、新年度スタートですね。</p> <p>田村： そうですね。</p> <p>廣川： ビッグニュースがあるんです。</p> <p>田村： あ！出ました！ありがとうございます！スーパービッグニュース！ なんと！田村家に新しい冷蔵庫が来ました！ありがとうございます！</p> <p>廣川： え？冷蔵庫ですか？</p> <p>田村： 新冷蔵庫。サイズが大きくなりました。ありがとうございます そんなの取り上げていただいて、すいません。なんかいいんですかね、本当に。</p> <p>廣川： 初めて聞きました。あっ、そうだったんですね。 田村家の中ではビッグニュースかもしれません。</p> <p>田村： あの冷蔵庫の話じゃないんですか？</p> <p>廣川： 違います。</p> <p>田村： 大きいな～いうて。</p>

廣川

便利やな～いうて。最近のやつは。違います！

田村：

え！違うんですか？

廣川：

私の方から発表させていただきます。こちらです！
2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが、
この度、吹田市名誉市民第一号になりました～！

田村：

おお～！すげ～！第一号なんや！うわ～凄い！なんや、冷蔵庫ちゃうんか～。

廣川：

違いますよ。吉野さんは1948年に吹田市でお生まれになったと。
千里第二小学校の卒業生で、当時の学校の先生が一冊の本を薦めてくださって
その本がきっかけで化学の不思議な世界に興味を持つようになったということ
なんですよ。

田村：

へえ～、すごいな～。

廣川：

それが今や生活に欠かせないリチウムイオン電池の開発、
そしてノーベル化学賞受賞に繋がったということなんですよ。

田村：

すごいですね、本当に。葉加瀬さんといい、吉野さんといい、
世界に通ずる方が吹田市は生まれますね。

廣川：

誇らしいですね。今回、第一号ということだったんですが…。

田村：

逆に葉加瀬さんは貰ってないんですね。

廣川：

そうみたいですね。
これから葉加瀬さんも田村さんも、二号、三号と続くかもしれませんが。

田村：

大丈夫かな、僕。

廣川：

大丈夫です。

吹田市名誉市民になるためにはどうしたらいいか、お知らせしますね。

田村：

あるんですか？条件が。

廣川：

「吹田市にゆかりがあり、社会の発展に寄与する活動が世界的に高く評価され、市民の皆様から吹田の誇りとして深く尊敬される方に、その功績と栄誉を永くたたえ贈られる」ということですよ。

田村：

絶対無理やろ。

廣川：

「世界的に」ということですから。

田村：

俺に行けるわけないでしょ。

廣川：

これから行きましょう！二号、三号のために。

田村：

ゆかりがあればいいんですね。

廣川：

そうなんです。まずはそこが大事ですから。

田村：

分かりました。ぜひとも二号、三号と出来てほしいですね。

廣川：

楽しみにしたいと思います。ここからは特集にまいりましょう。
今回は吹田市民にお馴染みの「アレ」の歴史についてです。

特集「祝 豊津駅 100周年！ 豊津駅と阪急電車の歴史を紹介（仮）」

斉藤

皆さん、こんにちは。斉藤雪乃です。
今回こちらの豊津駅が100周年を迎えたということで、鉄道大好きの私が
豊津駅の歴史、そして阪急電車のディープな所をリポートして参ります。
それでは参りましょう。出発進行！

タイトル「祝 豊津駅 100周年！ 豊津駅と阪急電車の歴史を紹介」

ナレーション

阪急電鉄豊津駅は、住宅地や商業地に囲まれた吹田市垂水町にある駅で、
千里線の吹田駅と関大前の間にあります。駅の建設は大正10年の1921年、
今年で100周年を迎えます。

斉藤

お話を伺いますのは統括駅長の山本さんです。よろしくお願いします。

山本

よろしくお願いします。

斉藤

まずは、豊津駅の歴史について教えてくださいか？

山本

はい、わかりました。この豊津駅は開業して100年になるんですけど、
開業した当初は阪急電鉄の駅ではなかったんです。
当時は北大阪電気鉄道という会社が開業させました。

ナレーション

豊津駅は大阪市内から郊外へ伸びる私鉄沿線の発達に伴い、大正10年に
十三～豊津間の終点の駅として開業しました。その後、度重なる会社合併で
新京阪鉄道、京阪電鉄、阪急の前身である京阪神急行電鉄と電鉄会社に変化し、
終戦後の昭和24年に現在の阪急電鉄の駅になりました。
100年もあると色々あるんですね～

斉藤

で、この豊津駅周りにはどんな街ですか？

山本

そうですね、豊津駅の周りは住宅地が広がっておりまして、複数の商店街もございます。隣の関大前駅には関西大学。東側には大和大学もございまして、若い人も多く活気のあるとても住みやすい街だと思っております。

斎藤

本当に暮らしやすいところですね。

山本

そうですね。

ナレーション

と、ここで鉄オタの雪乃さんから駅長に千里線のトリビアをリクエスト。

斎藤

他にも千里線でいうとどんな歴史がありますか？

山本

実は、この千里線にも車庫があったんです。

斎藤

どこにあったんですか？

山本

大阪梅田から吹田まで来る途中、吹田駅の手前に車庫がありました。

ナレーション

大正10年ごろから昭和2年ごろにかけて、当時の東吹田駅に車庫があったんです。これ、吹田の皆さんも知らなかったでしょ？

斎藤

思い返してみると、市役所までは行かないですけど、乗っているとスピードが緩くなってく時、ゆるくカーブを描くように歩道が繋がってますね。

山本

はい、そこに車庫があったんです。

斎藤

で、その時活躍した古い車両、あの車両たちは今どうなってますか？

山本

今は正雀車庫にございます。

斎藤

是非とも今回、吹田の皆さんに紹介したいので、私お邪魔させていただいてもよろしいでしょうか？

山本

どうぞ、是非行ってみてください。

斎藤

ありがとうございます。

ナレーション

次にやってきたのが、阪急電鉄・正雀駅に隣接している正雀車庫。
京都本線と千里線の車両が、こちらの正雀車庫の所属車両となります。
正雀車庫には車両をメンテナンスする工場も併設しているんですよ。
ここからは、技術部の小澤さんに案内いただきました。

斎藤

もう後ろには車両たちが勢ぞろいしてますけど、何両ぐらい停まるんですか？

小澤

そうですね、この正雀車庫は約300両収容できる車庫になってまして、
最終電車が終わるともうこれぐらいまでいっぱい電車が停まるような車庫に
なっております。

斎藤

工場を含めると、どのぐらいの広さになるんですか？

小澤

そうですね、だいたい甲子園球場の1.7倍というぐらいの大きさになります。

斎藤

その車庫にですね、古くから活躍した車両があると聞いてきたんですけども。

小澤

そうですね、こちらの車庫の方では5両の保存車両を置いてあります。

斎藤

是非とも見せていただけませんかでしょうか？

小澤

わかりました。そしたら車庫の方へご案内したいと思います。
どうぞこちらの方へお越しください。

斎藤

ありがとうございます。

小澤

足もと、気をつけていきましょか。右よし！左よし！

ナレーション

ということで、雪乃さんお待ちかねの古い車両が残されている車庫へと案内してもらいました。10両編成の電車の横を歩きながら車庫の奥へと進むと…、
あっ！ありました！

斎藤

お～～！よくぞ残ってましたね～。

小澤

こちらの10号車ですね、こちらの方は北大阪電気鉄道が新京阪になりまして、その新京阪が千里線用として作った車両になります。

斎藤

その時代に走っていたのがこの車両ですか。

小澤

そうですね。

斎藤

前照灯がここにあるのは、やっぱり昔ながらのというか、ヘッドライトって上の方ですもんね。

小澤

そういうイメージあるんですけど、その当時はやはりこの位置ですね。
この位置に付いていたようです。

斎藤

そして近づくと木で出来てる感じが…。

小澤

そうですね。木ですね、これは。

ナレーション

千里線用に最初に製造された10号車は、車両の骨組みは金属、外装や内装が木造の半鋼製車両でした。驚きですよ。そして、車内をのぞいてみると…。

小澤

じゃあ、足元を気をつけて上がってきてください。

斎藤

はい、失礼します。うわあ～！タイムスリップした。いやあ、なんてロマン溢れる良い灯りですね。

小澤

そうですね、なんともいえない裸電球の明かりですね。

斎藤

で、アーチ状の屋根に明かり取りの窓が良いですね。ちゃんと「つり“革”」ですね。

小澤

そうですね、革でできてます。

斎藤

細かい…、なんか豪華絢爛というわけではないんですけど、いたるところに気品が出る車両ですね。

小澤

そうですね。

斎藤

カーテンとか日除けも付いてますか？

小澤

日除けも付いてますけど、今の鎧戸と同じような形ですね。

斎藤

おおおお～～。

小澤

全て木で出来てます。

斎藤

今はアルミのサッシですね。形が一緒ですね。

小澤

そうですね、基本的には考え方は同じ考え方ですね。

ナレーション

そう、同じなのは鎧戸だけではありません。この時代に作られた車両と現在の車両を比べてみるとわかりますか？車両の壁が木製だった頃の面影が今もなお残っているんです。デザインとして受け継がれているんですね

次に電車の整備を行っている工場へ案内してもらいました

斎藤

これは車輪ですね。

小澤

はい、こちらの方は車輪の整備する場所になります。

斎藤

車輪がずらっと並んでいるということは、車体は？

小澤

そうですね、工場へ入って来ましたら車体部分は「天井走行クレーン」というクレーンがありまして、そのクレーンで吊って車体工場まで運んでいきます。

斎藤

クレーンで車体を持ち上げちゃうということですか？

ナレーション

ちょっと信じがたいですが…、
そうなんです。ご覧ください！阪急電鉄では車両をクレーンで持ち上げて、車輪部分と分けて整備を進めるんです。あの大きな車両がたった4本の爪で持ち上がっているんです。車両の上を車両が通過するこの景色、他じゃ見られないすごい光景です。さて、続いてやってきたのは…。

斎藤

小澤さん、ここへきて香りが変わりました。

小澤

そうですね、こちらの方がこの工場の塗装線になります。あの奥に見える緑のやつが塗装機と書いてありますが、塗装機になっておりまして、あの塗装機を電車で被せまして前後のシャッターを閉めて、密閉した状態で自動で色を塗っていくという形になります。

斎藤

小澤さん、あの方は筆で塗られていますか？

小澤

ちょっと養生したところとか、塗り残ってるところを手で塗ってます。

斎藤

手作業なんですね。

小澤

最後はやはり人間の手で仕上げていきます。

小澤

ここから見ていただいたら顔が映っていると思いますけど。

斎藤

いつもよりもものすごい映りますね、ホームで見るのとはまた違います。ピカピカ！

小澤

これが阪急独特の艶のあるマルーン色ですね。

斎藤

自分の姿がはっきり見えるから、ほんと鏡のように映るんですね、塗りはては。

ナレーション

阪急電車を象徴する「マルーンカラー」。

その歴史を知るために過去に阪急で活躍した車両を見せてもらいました

小澤

先ほど話にありましたようにマルーン色、ちょっと見ていただいたらわかりますように微妙に色が変わっているのを見ていただけかと思います。

斎藤

この隣に並んでいるの、明るいマルーンカラーとちょっと暗い色ですね。落ち着いたますね。今でもこのカラーを少し変わってるといえど続けているこだわりは何なんですか？

小澤

よくそれを聞かれるんですけど、一説には蒸気機関車の煙で、すすで汚れが目立ちにくいということで茶色にしたと言われてますし、一説によると当時は外側が木造になります。木で出来てるもので、腐食防止に日本の伝統工芸であります漆に酸化鉄を混ぜて塗ったのがこの茶色という風に言われてます。

ですから明治大正時代の車両は、阪急だけじゃなしに、JRの前の省線、それから他社さんもほとんどの電車が茶色に塗っていたと言われてます。阪急だけがその当時の茶色を今も約110年、伝統を守り続けてきたということになります。

斎藤

だからこそこのカラー今でも生きてるといふ。

小澤

そうですね。

斎藤

今回豊津駅が100周年ということで、そこから千里線の歴史、阪急電車の車両の歴史といろんな鉄道の歴史に触れることができ本当に楽しかったです。ありがとうございました。

小澤

ありがとうございました。

斎藤

皆さんも阪急電車に乗ったら、あのマルーンのツヤと歴史の息吹感じてみてはいかがでしょうか？

TIME	内容
	<p>廣川： 素敵でしたね～。</p> <p>田村： 素敵やな～。豊津駅の100周年もびっくりしたけど。 阪急電車って、なんか良いですよ。初めてみても、受け継がれてきたカラーによるノスタルジックさがあるんでしょうね。</p> <p>廣川 昔の車両も格好良かったですね～。</p> <p>田村： 枠のオレンジがよりマルーンカラーと合ってて、映えてましたね。 中も上品でしたしね。斉藤さんも言ってましたけど、気品がありましたよね。</p> <p>廣川： 本当になんかこう気高い感じになるというか…。</p> <p>田村： 素敵でしたよね。もともとは阪急電鉄が家の販売とかも始めたんですよ。</p> <p>廣川： 阪急グループ、小林一三がね。</p> <p>田村： いろいろな歴史が阪急にはありますね。</p> <p>廣川： これから阪急電車に乗る時、いろんな所を見てしまいそうですね。</p> <p>田村： 確かに気になりますよね。</p> <p>廣川： 変わってるところもあれば、変わってないところも沢山ありましたけど。 シートとか鎧戸とかね。斉藤雪乃さんは鉄オタとしても知られていますが、吹田市出身で…。</p> <p>田村： あ！吹田出身なんですか！？へえ～！ホンマですか。</p>

廣川：

ええと吹田 PR 大使でもあるということなんですよ。
今回は正雀車庫におじゃましましたけど、この正雀車庫も昔から弟さんと一緒に電車を眺めていた思い出の場所でもあったそうですよ。

田村：

そうなんや。じゃあ今回、そこに入れたんですね。感慨深かったでしょうね。

廣川：

また、吹田は鉄道の街としても知られていますけど、正雀車庫でしょ、それから大阪モノレールの車庫…これは私行ったことありますが、JR の吹田総合車両所、そして貨物ターミナル駅などがあり、鉄道ファンからは「聖地」と言われているそうで。

田村：

そんなに車庫あるんや。電車停め過ぎやろ。

廣川：

各車庫を観に行くのも楽しいかもしれないですね。

田村：

すごいね、聖地。

廣川：

以上、特集でした。

<ワンポイント手話>

久しぶりに友人と会いたいです

TIME	内容
吹田でSDGs！ #004 リブランドマネジメント	
	<p>田村： 続いては、吹田でSDGs！（エスディーシーズ）</p> <p>（フライングタイトル）</p> <p>廣川： このコーナーは、企業や団体などが行っているSDGsの取り組みを紹介していくコーナーです。 今回は、みなさんにとって大切な住まいづくりを通してSDGsに取り組んでいる工務店さんです。 どんなSDGsの取り組みなんでしょうか。 今回も麒麟君が調べてくれました。</p>

TIME	内容
	<p>麒麟君： こんにちは！麒麟君です。 今回やってきたのは、江の木町にある「リブランドマネジメント」さん。 工務店というと、きっと強面の親方がいると思うけど…、ここは突撃！</p> <p>見谷さん： こんにちは。ようこそ、リブランドマネジメントへ。どうぞ。</p> <p>麒麟君： よろしくお願いします。お仕事中おじゃまします。あれ、女性ばかりだね</p> <p>見谷さん： そうですね。半数以上が女性のスタッフです。</p> <p>麒麟君： これって親方が女好きだからじゃないの？ 強面で女好きな親方ってどんな人だろう？</p> <p>ナレーション： こらこら！麒麟君！こちらが社長の福家（ふけ）さんです。</p> <p>麒麟君： き、き、麒麟君です。よろしくお願いします！</p> <p>福家さん： 麒麟君、よろしく～！</p> <p>麒麟君： どんな人かと思ったけど、超スマイルな社長さんだね。 早速ですがSDGsの取り組みについて教えてもらえますか？</p> <p>福家さん： はい！もちろん教えてあげるよ、麒麟君！ うちがしてる仕事が当てはまるどころがいくつかあったので、世界規模で やられているというSDGsを何か少しでも貢献できればなという想いで 取り組もうということになりました。</p>

TIME	内容
	<p>麒麟君： 具体的には、どんなことに取り組んでるの？</p> <p>福家さん： 住宅作りをしてる中で太陽光パネルを設置することにより電力を発電させて電気で全てをまかない、そうするためにも断熱性であるとか気密性を高性能にする必要は少しあるんですけど、そういうことでエネルギー事情にも貢献が出来ます。</p> <p>ナレーション： リブランドマネジメントでは、 政府の定める「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」略してZEH（ゼッチ）の基準をクリアーするビルダーとして登録しています。</p> <p>麒麟君： うわ～、なんか良い素材使ってそうだよね～。</p> <p>福家さん 部屋内の仕上げ材の床のフローリングを足触りの良い、温かみのある無垢のフローリングであったり、壁材で漆喰を塗るということをしていましてその素材自体が吸湿、保湿、消臭ということが出来る材料を採用しています。人間の体に優しいというところでは、やはり自然素材が良いと私は思います。</p> <p>麒麟君： なるほど。 今のお話はSDGs 目標7番の『エネルギーをみんなに そしてクリーンに』 11番の『住み続けられるまちづくりを』に関わる取り組みだね。</p> <p>福家さん 麒麟君。家づくりはカタチが大切けども、それよりもっと大切なことがあるんだよ。それは思いや気持ちです。</p> <p>麒麟君： 思いや気持ち？</p> <p>福家さん 当社では「子どもが賢く育つ家」をテーマに作っております。 自分で考え、自分で決め、自分で行動をおこすというようなことが賢い子どもという位置付けにしています。</p>

ナレーション：

この考えのもと、従業員のみなさんも子どもの教育について積極的に学んでいます。さらに、見谷（みたに）さんは、教育業界7年以上の教育・子ども分野の専門家でもあります。

見谷さん

まず、子どもの時に一番大切なのは親との関係性なんですね。なので、親から見守られているという安心感のある間取りであったりとか、リビングに家族の本棚を設けてくださいという話をしています。それは、子ども達の能力に制限をかけないでほしいんですね。お父さんお母さんが読んでいる本も、もしかすると子ども達は興味をもって知識を深めるかもしれない。間取りだけじゃなくて、「何を置いたらいいですか？」「どういうふうに接したらいいですか？」というようなところをトータルでご提案させていただいている状態です。

ナレーション：

このほか、子どもの教育で今すぐ実践できることをシェアしてもらおうと無料の子育てセミナーなども開催しています。

麒麟君：

これは4番の『質の高い教育をみんなに』にあてはまる内容だね。

福家さん

子どもがうまく興味を持つ環境を親が作ることがすごく重要なんだろうなというふうに私自身も子どもを育てて経験しましたので、これから子育てされる方には私が知り得た情報は全て提供したいなと思います。

麒麟君：

子ども思いな社長さんだね。

福家さん

業界的に現場は男性がするものというように見えてるかもしれませんが、女性の方、子育て中の方であったりとか、子どもが成人をむかえてる方もおられますし、いろんな角度から家づくりに女性の意見を頂けるということは良いかなと思っております。

麒麟君：

これもSDGs目標に関わってくるよ。田村さん、もうわかるよね？これは5番の『ジェンダー平等を実現しよう』に関わってくるんだよ。

TIME	内容
	<p>福家さん 女性の目線とか、一緒に協調しながらやれるっていう男性スタッフが揃ってますので、非常にうまくバランスがとれているなと思っています。</p> <p><u>麒麟君：</u> リブランドマネジメントさんの取り組みは、家のカタチだけでなく、思いや考え方までが持続可能な取り組みだったね。 いろいろ、教えて頂きありがとうございました。</p>

TIME	内容
	<p>田村： 素晴らしいですね。</p> <p>廣川： 笑顔の素敵な社長さんでしたね。</p> <p>田村： ノリの良い。キリン君、キリン君言うてましたもんね。 素晴らしい、物の考え方が。家を作るだけじゃなくて、家族、子どもの教育、 いろんなところまで視野が広いのが素晴らしいですね。</p> <p>廣川： 本当にただ住むだけじゃなくてってところですよ。</p> <p>田村： 本棚の共有とか、めっちゃ良いですよ。</p> <p>廣川： あれは「なるほど！」と思いましたよね。</p> <p>田村： 子どもの本だけでまとめちゃいがちやけど、 確かに何に興味持つか分からへんもんね。あれは良いな～。</p> <p>廣川： 間取りによって子どもが安心して活動できるっていうのもあるんだなって。</p> <p>田村： 本当に子どもって親に見てもらおうの大好きですからね。</p> <p>廣川： 「見て！見て！」ってね。</p> <p>田村： それが常にあるっていうのは良いですよ。</p> <p>廣川： すごい素敵な取り組みをたくさんしていらっしゃる会社でしたね。 以上「吹田でSDGs」のコーナーでした。</p>

TIME	内容
	<p>田村： 続いては、市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>廣川： 今回は春の話題をお届けします。</p>
	<p><u>ナレーション（廣川）</u></p> <p>3月12日、広芝町の農地で「菜の花観賞・花摘み会」が開催されました。</p> <p>これは「花とみどりふれあい農園事業」の一環として毎年おこなっているもので、市内の農家の協力を得て農地を開放してもらい、春は菜の花、秋はコスモスの観賞・花摘み会を開催しています。</p> <p>住宅街の中にある、およそ1400平方メートルの広さのこの農地には、ちょうど見ごろを迎えた菜の花が咲き誇っていました。</p> <p>この日はコロナ禍とあいにくの雨模様のため、参加者はあまり多くありませんでしたが、公募で集まった親子連れなどが参加し、気に入った花を摘んだり、菜の花と一緒に記念撮影をしたりして、春のひとときを楽しんでいました。</p> <p><インタビュー></p> <p>こっちに引っ越してきて初めてここに来たんですよ。参加したんですよ。何かやっぱり「ああ、春が来たなあ」って感じますね。</p> <p>今日は来れて良かったです。お隣の人とかにあげて、私の家に飾ります。</p>

TIME	内容
	<p>田村： 良いですね～。</p> <p>廣川： 素敵でした。</p> <p>田村： あんな住宅街に菜の花畑があるんですね。</p> <p>廣川： すごかったですね、満開。</p> <p>田村： みんな楽しそうで良かったですね。</p> <p>廣川： 子どもたちも笑顔が見られましたね。以上、「吹田のトピックス」でした。</p> <p>田村： ということで、今回はここまでとなります。 また次回お会いしましょう。さようなら～</p>